

2019年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号    | 科目名                         | 担当者名  | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---------|-----------------------------|-------|--------|-----|--------|---------|
| 2203151 | 卒業研究<br>Graduation Research | 近藤 茂明 | 専門     | 4   | 必修     | 4年 通年   |

**科目の概要**

本科目の目的は家政学専攻における4年間の学修を通して身につけてきた学習力・学力を総合的に用いて、自身の研究課題を設定し、地道な文献研究や調査活動等、様々な方法を駆使してその探究を進め、新たな知見を見出していくことである。その際、衣食住を中心とした現代社会における諸課題について、これからの人間の生き方や生活スタイルに結びつけていく視点を大切にし、かつ、それを論理的な枠組みの中で展開していく学修スキルを高めていく。

| 学修内容                       | 到達目標   |
|----------------------------|--|
| ① 研究課題に関する基礎的概念・内容を理解する。   | ① 研究課題をめぐる先行研究等を基に、基礎的概念・内容を整理して理解することができる。      |
| ② 研究課題に沿った資料収集・読解、調査活動を行う。 | ② 研究課題に沿った研究方法を見つけ、活動を積み上げていくことができる。             |
| ③ 研究内容を論文にまとめる。            | ③ 研究内容に関する諸概念を的確に押さえた上で、論理的に記述することができる。          |
| ④ 研究内容を発表したり議論したりする。       | ④ 集団的な研究活動として、自身の研究を相手に分かりやすく発表したり議論したりすることができる。 |

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

|         |             |  |
|---------|-------------|--|
| 前に踏み出す力 | 主体性         | 自身の経験や関心と結びつけながら、学習活動に取り組むことができる。                    |
|         | 働きかけ力       |  |
|         | 実行力         | 自身の願いに沿った課題設定を行い、積極的な態度をもって、根気よく研究活動に取り組むことができる。     |
| 考え抜く力   | 課題発見力       | 自身で設定した研究課題だけにとらわれることなく、新たな課題につながるヒントを見出すことができる。     |
|         | 計画力         |  |
|         | 創造力         | 研究活動全体に対して柔軟で多様な考え方で取り組むことができる。                      |
| チームで働く力 | 発信力         | ゼミや全体発表の場で自身の研究の進捗状況・到達点や今後の課題を整理して表現することができる。       |
|         | 傾聴力         | ゼミや全体発表の場で自分の考えと比較しながら他者の意見に耳を傾け、より深い考えを導き出すことができる。  |
|         | 柔軟性         |  |
|         | 状況把握力       |  |
|         | 規律性         | その都度、必要な研究活動について、提出期限や留意点を守って確実に進め、ゼミの活動に参加することができる。 |
|         | ストレスコントロール力 |  |

**テキスト及び参考文献**

テキスト:使用しない。

参考文献:各自の研究内容に応じた参考文献・資料を適宜提示する。

**他科目との関連、資格との関連**

家政学専攻において開講される全ての授業科目

| 学修上の助言  | 受講生とのルール   |
|---|--|
| 卒業研究には、一年間にわたる長期の研究活動が求められる。そのため、常に自分の研究課題と向き合い、地道な積み重ねを行うことが最大のポイントとなる。また、そのことを通じて、諸現象に見え隠れする本質を客観的かつ柔軟にとらえ、他者の考え方と相互交流していく探究的な心構えを培ってほしい。 | 教師の指導助言を主体的に受け止め、自身の研究活動を計画的に進めていく。<br>本学での4年間の学修の集大成として取り組む自覚を強くもって臨むようにする。 |

【評価方法】

| 評価方法             | 評価の割合      | 到達目標 |   | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント  |
|------------------|------------|------|---|--|
| 筆記試験             |            |      |   |  |
| 小テスト             |            |      |   |  |
| レポート             |            |      |   |  |
| 成果発表<br>(口頭・論文)  | 30<br>(口頭) | ①    | レ | ・ゼミの検討会、中間発表会、最終発表会での発表や質疑応答における表現内容・方法の明確さを評価する。<br><br>・最終的にまとめられた卒業論文に対して総合的な評定を行う。観点は次の3点である。<br>観点1: 学術論文の形式を有している。<br>観点2: 論述が明瞭かつ論理的になされている。<br>観点3: 研究活動や指導の経緯をふまえた内容となっている。   |
|                  |            | ②    | レ |  |
|                  | ③          | レ    |   |  |
|                  | ④          | レ    |   |  |
| 60<br>(論文)       |            |      |   |  |
| 作品               |            |      |   |  |
| 社会人基礎力<br>(学修態度) | 10         | ①    | レ | (主体性)<br>・研究課題を自分自身の経験や関心に引きつけて研究活動に取り組むことができる。<br>(実行力)<br>・明確な目標設定を行い、それに向かって根気よく取り組むことができる。<br>(課題発見力)<br>・自身の課題を広げ深めて研究活動を発展させることができる。<br>(創造力)<br>・他者の考えを柔軟に受け入れ、多様な研究活動に取り組むことができる。<br>(発信力)<br>・自分の考えを整理し、相手に分かりやすく伝えることができる。<br>(傾聴力)<br>・相手の考えを建設的に受け入れながら自分の考えを深めることができる。<br>(規律性)<br>・その都度、締切期限や留意点を守って確実に研究活動を進めることができる。 |
|                  |            | ②    | レ |  |
|                  |            | ③    | レ |  |
|                  |            | ④    | レ |  |
| 総合評価<br>割合       | 100        |      |   |  |

【到達目標の基準】

| 到達レベル S(秀) 及び A(優) の基準   | 到達レベル B(良) の基準   |
|--|--|
| <b>A(優) の基準</b><br>①ゼミ活動や各種発表会等を通して、自分の考えを積極的に発信し、かつ他者の意見も柔軟に受け入れながら、自身の研究活動を高めている。<br>②先行研究を生かしながら、文献研究や調査活動等を通じて、自身の研究の独自性を示している。<br>③論文の形式、内容ともに的確な展開がなされ、明確な知見が盛り込まれている。<br><br><b>S(秀) の基準</b><br>上記3項目のいずれに関しても極めて高い評価を得られると判断された場合。 | <b>B(良) の基準</b><br>①ゼミ活動や各種発表会を通して、自分の考えを分かりやすく発表し、他者の発表から少しでも学ぼうとする姿勢を示している。<br>②先行研究をふまえ、自身の文献読解や調査活動等を通じた研究活動を進めている。<br>③学術論文の形式をふまえた論文作成がなされている。 |

| 週      | 学修内容  | 授業の実施方法          | 到達レベルC(可)の基準                                       | 予習・復習  | 時間(分) | 能力名   |
|--------|---|------------------|--|--|-------|---|
| 1～5週   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○全体オリエンテーション<br/>(年間の研究活動の進め方、留意点の確認)</li> <li>○自身の関心に基づく研究課題の設定</li> <li>○研究活動開始</li> </ul>                 | 全体指導<br>個別指導     | 研究活動の進め方や留意点を理解し、自身の課題設定を行うことができる。                 | (予習)<br>図書館・インターネットによる各種資料・先行研究等の収集<br>(復習)<br>収集資料・先行研究等の整理 | 120   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 6～12週  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○先行研究文献の読解</li> <li>○各種資料類の収集・分析</li> <li>○調査活動案の作成</li> <li>○具体的な研究課題の見つけ出し</li> </ul>                      | 個別指導<br>全体報告(指導) | 自身の研究課題を基に、研究活動を計画的に進め、ゼミ発表において進捗状況を的確に発表することができる。 | (予習)(復習)<br>図書館・インターネットによる各種資料・先行研究等の読解・分析・考察の継続             | 240   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 13～15週 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○中間発表会に向けた要旨、発表原稿、プレゼンの作成、ゼミ内でのリハーサル</li> <li>○研究活動の進捗状況の確認</li> </ul>                                       | 個別指導<br>全体報告(指導) | 中間発表会の諸準備を通して、自身の研究活動の進捗状況を確認することができる。             | (予習)<br>中間発表会に向けた要旨・発表原稿・プレゼンの作成<br>(復習)プレゼンの修正・発表練習         | 120   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 16～27週 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○中間発表会をふまえた研究活動の方向性・内容の修正・確認</li> <li>○研究活動の継続<br/>(先行研究文献の読解、調査活動の実施・分析・考察)</li> <li>○計画的な卒業論文執筆</li> </ul> | 個別指導<br>全体報告(指導) | 研究活動の方向性・内容を整理し、卒業論文執筆を計画的に進めることができる。              | (予習・復習)<br>新たな資料・論文等の収集・読解・分析・考察<br>卒業論文の作成                  | 240   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 28～30週 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○最終発表会に向けた要旨、発表原稿、プレゼンの作成、ゼミ内でのリハーサル</li> <li>○卒業論文の校正・完成</li> </ul>   | 個別指導<br>全体報告(指導) | 最終発表会の準備を行い、研究活動の成果を卒業論文としてまとめ完成させることができる。         | (予習)(復習)<br>最終発表会に向けた要旨・発表原稿・プレゼンの作成・修正・発表練習<br>卒業論文の校正・完成   | 120   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
 ストレスコントロール力

2019 年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号    | 科目名                         | 担当者名  | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---------|-----------------------------|-------|--------|-----|--------|---------|
| 2203151 | 卒業研究<br>Graduation Research | 龍田 建次 | 専門     | 4   | 必修     | 4年 通年   |

**科目の概要**

卒業研究は、学校生活最後の1年間を1つのテーマを決めて行う授業です。家政学専攻の4年間で学んだことをベースに、テーマを決めます。家政学は、生活の向上を支える実践的総合科学です。まずは、これまでに学んだ生活の向上に関わる学修を整理します。研究のテーマは、よほどのことが無い限り、変えることができません。何を学修したいのか、なぜ学修したいのか、どんな結果が得たいのかをしっかりと考え、決定します。卒業研究では、このテーマ決めが、最も大切です。

そのテーマに向かい、真摯に研究を進めます。その際、科学的な根拠が必要です。調査、実験、分析、考察と、卒業研究は進んでいきますが、単なる思い込みでは研究にはなりません。この一連の学修を経験することにより、論理的に物事を思考する態度を身に付くと考えています。また、「新しいライフスタイルを提案」するために必要な、自分自身の考え方、ものの見方の軸を作っていくことにもなると考えています。

| 学修内容                                | 到達目標                                 |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| ① 家政学専攻での学修をベースに、生活に関係した研究テーマを見付ける。 | ① 家政学専攻での学修をベースに、生活に関係した研究テーマを設定できる。 |
| ② 研究テーマを決めた経緯を整理して、その目標を明確にする。      | ② テーマを決めた経緯を整理しながら、卒業研究の目標を明示できる。    |
| ③ 先行研究を調査し、研究の方法を考える。               | ③ 先行研究を参考にして、自身の研究の手法を構築できる。         |
| ④ 情報を収集し、整理、分析、考察する。                | ④ 情報を収集、整理、分析、考察することができる。            |
| ⑤ 自身の研究内容を論文にまとめる。                  | ⑤ 自身の研究内容を論理的に記述することができる。            |
| ⑥ 自身の研究成果を、口頭で発表する。                 | ⑥ 自身の研究成果を、口頭で発表できる。                 |

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

|         |             |  |
|---------|-------------|--|
| 前に踏み出す力 | 主体性         | 予習課題を行い、活用した情報源と共に、学習成果を学修態度評価シートに記述します。                                   |
|         | 働きかけ力       |  |
| 考え抜く力   | 実行力         | 予習課題に関連した自習課題を設定し、設定した理由と学習成果、活用した情報源を、学修態度評価シートに記述します。                    |
|         | 課題発見力       | 学修項目、理解度、疑問を、学修態度評価シートに記述します。  |
|         | 計画力         |  |
| チームで働く力 | 創造力         | 授業中に示される復習課題を書きます。課題を実行した際、活用した知識・技能、および、発揮した社会人基礎力とその場面を、学修態度評価シートに記述します。 |
|         | 発信力         | 授業中に示される設問へのあなたの答えを、学修態度評価シートに記述します。                                       |
|         | 傾聴力         | 授業中に示される設問を、学修態度評価シートに記述します。   |
|         | 柔軟性         |  |
|         | 状況把握力       | 毎週、学修内容が、あなたの得意な内容か把握します。他のメンバーが戸惑っていないか気を配ります。発揮したことを、チェックシートで確認します。      |
|         | 規律性         | 卒業論文、中間報告、研究発表、要旨および毎週の学修態度評価シートについて、日時を守ります。                              |
|         | ストレスコントロール力 |  |

**テキスト及び参考文献**

テキスト:特になし。

参考文献:必要に応じて、提示します。自身で検索した文献も、参考文献として認めることもあります。

**他科目との関連、資格との関連**

家政学専攻で開講される全ての科目、特にキャリア形成Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び生活スタジオ入門、生活スタジオⅠ、Ⅱ。

| 学修上の助言  | 受講生とのルール   |
|---|--|
| 卒業研究に対して努力を惜しまないこと。研究に好奇心を持って向き合うこと。資料を精査し、自分の頭でしっかり考えること。<br>真摯に取り組むことによって、初めて「研究すること」の面白さが理解できます。中途半端な取り組みからは、何も得られません。 | 少しずつでも良いから、自身の卒業研究に関する作業を、毎日行います。<br>毎週の授業時に、進捗状況の報告を必須とします。 |

【評価方法】

| 評価方法             | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント |   |
|------------------|-------|------|---------------------------------|---|
| 卒業論文             | 60    | ①    | ✓                               | 卒業論文の内容で評価します。<br>すべて自身で執筆し、研究成果が伝われば 60 点。教員の手助けが 30% 以上必要であれば 50 点。すべて、教員の関与が無ければできないのであれば 40 点。論文が提出できなければ 0 点です。  |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    | ✓                               |   |
|                  |       | ④    | ✓                               |   |
|                  |       | ⑤    | ✓                               |   |
|                  |       | ⑥    | ✓                               |   |
| 中間報告<br>研究発表     | 30    | ①    | ✓                               | 中間報告、研究発表およびそれぞれの要旨で、評価します。<br>すべて自身で行い、研究成果が伝われば 30 点。一部、教員の手助けが無ければできなのであれば 25 点。プレゼンか要旨のいずれかが教員の関与が無ければできないのであれば 20 点。すべて、教員の関与が無ければできないのであれば 15 点。報告・発表ができなければ 0 点です。   |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    | ✓                               |   |
|                  |       | ④    | ✓                               |   |
|                  |       | ⑤    | ✓                               |   |
|                  |       | ⑥    | ✓                               |   |
| 社会人基礎力<br>(学修態度) | 10    | ①    | ✓                               | 学修態度評価シートとチェックシートにより、以下の内容を、それぞれ確認し評価します。<br>[主体性] 予習課題を行い、活用した情報源と共に、学習成果を学修態度評価シートに記述します。[実行力] 予習課題に関連した自習課題を設定し、設定した理由と学習成果、活用した情報源を、学修態度評価シートに記述します。[課題発見力] 学修項目、理解度、疑問を、学修態度評価シートに記述します。[創造力] 授業中に示される復習課題を書きます。課題を実行した際、活用した知識・技能、および、発揮した社会人基礎力とその場面を、学修態度評価シートに記述します。[発信力] 授業中に示される設問へのあなたの答えを、学修態度評価シートに記述します。[傾聴力] 授業中に示される設問を、学修態度評価シートに記述します。[状況把握力] 毎週、学修内容が、あなたの得意な内容か把握します。他のメンバーが戸惑っていないか気を配ります。発揮したことを、チェックシートで確認します。[規律性] 卒業論文、中間報告、研究発表、要旨および毎週の学修態度評価シートについて、日時を守ります。習課題を行い、学習成果を、活用した情報源と共に学修態度評価シートに記述する。 |
|                  |       | ②    | ✓                               |   |
|                  |       | ③    | ✓                               |   |
|                  |       | ④    | ✓                               |   |
|                  |       | ⑤    | ✓                               |   |
|                  |       | ⑥    | ✓                               |   |
| 筆記試験             | 0     |      |                                 | 筆記試験は、行いません。  |
| 総合評価<br>割合       | 100   |      |                                 |   |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準  | 到達レベルB(良)の基準   |
|---|--|
| <p><b>A(優)の基準</b></p> <p>① 毎週の授業に出席し、自身の課題を報告する。</p> <p>② 月に一回の研究室内報告で、自身の成果を報告し、メンバーの報告にも、考えたことを話す。</p> <p>③ 先行研究を自身の力で見付け、自身の課題解決に活用する。</p> <p>④ 研究の成果を、文章化やグラフ、写真などで、出力する。研究の成果を、他の人が理解できるように伝える。</p> <p>※ 上記 4 項目の基準をに対して極めて高い評価が与えられると判断された場合、S(秀)評価をする。</p> | <p><b>B(良)の基準</b></p> <p>① 毎週の授業に出席し、自身の課題を報告する。</p> <p>② 先行研究を教員の力も借りて見つけ出し、自身の課題解決に活用する。</p> <p>③ 研究の成果を、文章化やグラウ化などで、出力する。</p> |

| 週 | 学修内容  | 授業の実施方法           | 到達レベル C(可)の基準  | 予習・復習   | 時間(分) | 能力名   |
|---|---|-------------------|--|---|-------|---|
| / | 卒業研究のテーマを決めます。<br>テーマを5つ考えて、報告します。<br>報告では、テーマと考えた理由と、どんな結果を考えているかを文書で示します。                       | 報告<br>発表<br>レクチャー | 毎週の授業に参加している。<br>月一回の研究室内発表会で発表している。<br>卒業研究のテーマの案を提示できる。                  | これまでの授業などで、学んだ事を振り返ります。<br>先行事例を検索します。<br>調べたことを文書で表現します。                                     | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 研究の方法を考えます。<br>研究の目標を確認します。<br>検索した先行事例を報告し、自身の研究との比較、活用できることを整理します。<br>大まかな研究計画を立てて、その妥当性を検討します。 | 報告<br>発表<br>レクチャー | 毎週の授業に参加している。<br>月一回の研究室内発表会で発表している。<br>先行事例を提示して、自身と比較し、参考になっていることを提示できる。 | 卒業研究として成立するかを、改めて自身で考えます。<br>さらなる先行事例を検索し、自身の目標と比較します。<br>調べたこと、考えたことを文書で表現します。               | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 研究の方法を決めて、研究計画を立てます。<br>先行事例を読み込み、さらに検索します。<br>フィールドワークやインタビュー、アンケート調査、実験など、より具体的な研究方法を考えます。      | 報告<br>発表<br>レクチャー | 毎週の授業に参加している。<br>月一回の研究室内発表会で発表している。<br>自身で、調べたこと、考えたことをスライドにまとめて発表している。   | 先行事例を読み込み、さらに検索します。<br>フィールドワークやインタビュー、アンケート調査、実験など、より具体的な研究方法を考えます。<br>調べたこと、考えたことを文書で表現します。 | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 中間報告の準備をします。<br>ここまでの研究の進捗状況を、スライドにまとめます。<br>オーラル原稿を作成し、研究室内で発表します。<br>要旨を作成します。<br>教員のチェックを受けます。 | 発表<br>レクチャー       | 毎週の授業に参加している。<br>中間報告のスライド、オーラル原稿、要旨を教員に提出している。<br>研究室内で発表している。            | ここまでの研究の進捗状況をまとめ、スライド、オーラル原稿、要旨を作成します。<br>研究室内で発表します。   | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 中間報告を行います。<br>ここまでの研究の進捗状況を報告します。<br>要旨を提出します。  | 発表                | 中間報告ができる。<br>要旨が提出できる。   | 報告に向けて、十分練習します。<br>報告に対して出された質問や意見をまとめます。   | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

| 週 | 学修内容  | 授業の実施方法     | 到達レベル C(可)の基準  | 予習・復習   | 時間(分) | 能力名   |
|---|---|-------------|--|---|-------|---|
| / | 研究を進めます。<br>研究の目標、計画、中間報告での意見などを整理して、卒業研究を進める。  | 報告<br>レクチャー | 毎週の授業に参加している。<br>毎回、それまでに行ったこと(情報収集、分析、考察など)を、研究の進捗状況を報告できる。   | 各自の研究の目標、計画、中間報告での意見などを整理して、研究計画を立て直します。<br>情報収集、分析、考察などの進捗状況をレポートにまとめます。           | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 卒業論文を執筆します。<br>論文の構成を考え、目次を作ります。教員のチェックを受けてから、執筆を始めます。<br>完成した卒業論文を提出します。             | 報告<br>レクチャー | 毎週の授業に参加している。<br>論文を執筆し、教員のチェックを受けている。<br>期日までに、論文を提出できている。    | 論文の構成を考え、目次を作ります。<br>教員のチェックの後、執筆を進めます。<br>教員に論文のチェックを受けます。<br>完成させ、教員の採択チェックを受けます。 | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 研究発表の準備<br>研究の内容をまとめ、スライド、発表原稿、要旨を作成する。<br>教員のチェックを受け、修正する。                           | 発表<br>レクチャー | 毎週の授業に参加している。<br>研究発表のスライド、発表原稿、要旨を教員に提出できる。教員の指示に従い修正できる。     | 研究発表のスライド、発表原稿、要旨を作成する。   | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 研究発表の準備をします。<br>研究の内容をまとめ、スライド、オーラル原稿、要旨を作成します。<br>研究室で発表します。<br>要旨を作成し、教員のチェックを受けます。 | 発表<br>レクチャー | 毎週の授業に参加している。<br>研究発表のスライド、オーラル原稿、要旨を教員に提出している。<br>研究室で発表している。 | 研究の内容をまとめます。<br>スライド、オーラル原稿、要旨を作成します。<br>教員のチェックを受けます。<br>研究室で発表します。                | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| / | 研究発表します。<br>卒業研究を発表します。   | 発表          | 研究発表ができる。  | 発表に向けて、十分練習します。<br>しっかり、真摯に発表します。   | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

2019 年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号   | 科目名         | 担当者名   | 基礎・専門別  | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|--|-------------|--|---|-----|--------|---------|
| 2203151  | 卒業研究        | 西原 麻里  | 専門  | 4   | 必修     | 4年 通年   |
| <b>科目の概要</b>   |             |  |   |     |        |         |
| <p>研究とは、いわば「ナゾ解き」である。この研究室では、家政学専攻での学修の集大成として、社会学／メディア文化研究の視点から人びとの生活・文化に関わるナゾを解き明かす研究をおこなう。日常生活にあるさまざまなメディアの表現やコミュニケーションの様相を読み解き、そこに隠れている社会規範・価値観について分析することで、社会における問題や課題の要因を明らかにする。そのうえで、より豊かで望ましい社会のあり方について自分なりの答えを出す。</p> <p>この研究室において重要なのは、自分の主張の裏づけを明確にし、自分の主張にたいして責任をもつことである。研究は個人（学生自身）がおこなうが、テーマや問いを深める＝ナゾを発見する作業、分析・考察＝推理などは、ゼミ教員や他のゼミ生とのディスカッションも随時おこなうことで進めていく。</p> |             |  |   |     |        |         |
| <b>学修内容</b>  |             |  | <b>到達目標</b>   |     |        |         |
| ① 家政学専攻で学修した知識を活用する。<br>② 社会学やメディア文化研究の理論を学び応用する。<br>③ テーマや問いを深める作業をつうじて、みずからの思考を言語化／視覚化する。  |             |  | ① 家政学専攻の学修にもとづき研究成果を提出できる。<br>② 社会学やメディア文化研究の理論にもとづいた研究をおこなうことができている。<br>③ テーマや問いを深め、みずからの思考を言語化／視覚化することで主張できる。   |     |        |         |
| <b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>   |             | <b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>                               |   |     |        |         |
| 前に踏み出す力  | 主体性         | みずから設定した問いへの考察を深めるための、好奇心や探究心をもつ。ふだんからアンテナを張り、情報収集と内容の吟味につとめる。 |   |     |        |         |
|  | 働きかけ力       |  |   |     |        |         |
|  | 実行力         | ナゾを解き明かすためのアクションを積極的におこない、分析・考察＝推理をおこなう。                       |   |     |        |         |
| 考え抜く力  | 課題発見力       | 日常生活におけるさまざまなナゾ（日常に隠れている規範や価値観）に気づき、その問題点や要因を探る。               |   |     |        |         |
|  | 計画力         |  |   |     |        |         |
|  | 創造力         | みずからの思考を、文章やプレゼンテーションなどで言語化／視覚化する。                             |   |     |        |         |
| チームで働く力  | 発信力         | 自分の推理とその答えについて自信をもって主張する。また、自分の主張する内容や発言にたいして責任をもつ。            |   |     |        |         |
|  | 傾聴力         | これまでの学術的知見（先行研究）や他者の意見にたいして敬意をもって学ぶ（全面的に容認せよ、ということではない）。       |   |     |        |         |
|  | 柔軟性         |  |   |     |        |         |
|  | 状況把握力       |  |   |     |        |         |
|  | 規律性         | 学術研究のルール、ゼミの開講日時とゼミでの決まりごと（レジュメ作成や課題など）を守る。また、要所要所での〆切を遵守する。   |   |     |        |         |
|  | ストレスコントロール力 |  |   |     |        |         |
| <b>テキスト及び参考文献</b>  |             |  |   |     |        |         |
| テキスト：戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK 出版、2012 年<br>参考文献：みずからの研究テーマに対応するさまざまな文献資料。参考になりそうなものはその都度紹介する。   |             |  |   |     |        |         |
| <b>他科目との関連、資格との関連</b>  |             |  |   |     |        |         |
| 家政学専攻にて開講されるすべての授業。これまで修得してきた知識や技能をフルに活用すること。  |             |  |   |     |        |         |
| <b>学修上の助言</b>  |             |  | <b>受講生とのルール</b>   |     |        |         |
| 卒業研究は、学生がみずからの大学での学びで得たものを存分に発揮する場である。良い卒業研究、つまり大学生生活の集大成となるかどうかは、各々の思考や行動次第である。もたらされる結果のほとんどは、自分の取り組みや努力によるものだと考えること。   |             |  | ゼミ教員や他のゼミ生との連絡は、つねに密におこなうこと。厳しい意見を受けてもそこで逃げ出さず、自分なりの答えを出すよう努めること。いつでもナゾ解き（推理）の手がかりを得られるように、日々の生活のなかでつねにアンテナを張ること。 |     |        |         |



【評価方法】

| 評価方法  | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント |
|---|-------|------|---------------------------------|
| 筆記試験  |       | ①    |                                 |
|   |       | ②    |                                 |
|   |       | ③    |                                 |
| 小テスト  | 50    | ①    | ✓                               |
|   |       | ②    | ✓                               |
|   |       | ③    | ✓                               |
| 卒業研究の成果を「論文」の形で発表・提出する。卒業論文は以下の観点で評価をおこなう。<br>1) 学術論文のルールにもとづいて章立てや構成を組んでいること。<br>2) 問い／先行研究の検討／研究方法／分析／考察／結論、という論文の構成がひとまとまりになっていること。<br>3) 主張が明確かつ論理的であること。<br>4) 研究計画に沿って研究を進め、論文提出にいたるまで事前に何度も執筆と改稿をしていること。<br>5) ゼミで得られたコメントを盛り込んでいること。  |       |      |                                 |
| レポート  |       | ①    |                                 |
|   |       | ②    |                                 |
|   |       | ③    |                                 |
| 成果発表<br>(口頭・実技)   | 40    | ①    | ✓                               |
|   |       | ②    | ✓                               |
|   |       | ③    | ✓                               |
| 卒業研究の中間発表会と研究発表会にて、自分の研究の成果をプレゼンテーションする。効果的に研究内容を伝えられるよう発表資料を作成し、原稿を読まずに口頭で説明すること。また、質問やコメントの意味を把握し過不足なく応答すること。   |       |      |                                 |
| 作品  |       | ①    |                                 |
|   |       | ②    |                                 |
|   |       | ③    |                                 |
| 社会人基礎力<br>(学修態度)  | 10    | ①    | ✓                               |
|   |       | ②    | ✓                               |
|   |       | ③    | ✓                               |
| (主体性)<br>・ふだんからアンテナを張り、情報収集と内容の吟味につとめている。<br>(実行力)<br>・ナゾを解き明かすためのアクションを積極的におこなっている。<br>(課題発見力)<br>・日常生活におけるさまざまなナゾに気づき、その問題点や要因を探る。<br>(創造力)<br>・みずからの思考を、文章やプレゼンテーションなどで言語化／視覚化する。<br>(発信力)<br>・自分の推理とその答えについて自信をもって主張する。<br>(傾聴力)<br>・これまでの学術的知見(先行研究)や他者の意見にたいして敬意をもって学ぶ<br>(規律性)<br>・学術研究のルールに則っていること。 |       |      |                                 |
| 総合評価<br>割合  | 100   |      |                                 |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準   | 到達レベルB(良)の基準  |
|--|---|
| <p>S:毎週のゼミにかならず出席し、指示を受けたもの以上の資料収集や分析を進めておき、教員や他のゼミ生と積極的にディスカッションができる。先行研究と分析にもとづく論理的な主張がなされており、問いに対応する結論が導き出されている。質問やコメントにたいして的確に応答できる。</p> <p>A:毎週にゼミにかならず出席し、指示のあった資料収集や分析を進め教員や他のゼミ生と積極的にディスカッションができる。先行研究と分析にもとづく論理的な主張がなされており、問いに対応する結論が導き出されている。質問やコメントにたいして的確に応答できる。</p> | <p>毎週にゼミにかならず出席し、指示のあった資料収集や分析を進めることができる。先行研究とみずからの分析にもとづく論理的な主張がなされており、問いに対応する結論が導き出されている。質問やコメントにたいして応答できる。</p> |

| 週                           | 学修内容  | 授業の実施方法      | 到達レベル C(可)の基準                               | 予習・復習   | 時間(分) | 能力名  |
|-----------------------------|---|--------------|---|---|-------|--|
| 1週<br>～<br>15週<br>/<br>15週  | 研究を進める<br>* 資料や先行研究を収集する<br>* 問いを立てる<br>* 研究方法や理論を学ぶ<br>* 研究対象を選定する<br>* 調査と分析をおこなう<br>* 分析結果にもとづき考察をおこなう   | 演習<br>質疑応答   | 各週のゼミでレジюмеを作成し報告する。課題としてその都度提示される内容をクリアする。 | (予習)<br>次のゼミで報告する内容についてのレジюмеを作成する。<br>(復習)<br>指示を受けた課題に取り組む。文献読解や資料調査などをおこなう。        | 無制限   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| ※                           | 中間発表会に向けたリハーサル<br>* 発表の構成を組み立てる<br>* 発表用資料を作成する<br>* 発表のリハーサルをおこなう  | 演習<br>質疑応答   | 発表用資料を作成しリハーサルに参加する。                        | (予習)<br>リハーサルで出た問題をクリアできるよう、内容をブラッシュアップする。<br>(復習)<br>問題をクリアできるよう準備を進める。              | 無制限   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| ※                           | 中間発表会<br>* 現時点での研究内容と今後の見通しについて報告する<br>* 質疑応答にて的確に回答する  | 成果発表<br>質疑応答 | 発表会にて、定められたルールを守りつつ研究発表をおこなう。               | (予習)<br>予想されるコメントや質問を吟味し、適宜応えられるよう調査や考察を進める。<br>(復習)<br>発表会の成果をふまえて調査・考察を進める。         | 無制限   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 16週<br>～<br>30週<br>/<br>30週 | 研究を進める<br>* 中間発表会にて得られた課題を吟味する<br>* 引き続き、資料や先行研究を収集する<br>* 調査と分析をおこなう<br>* 分析結果にもとづき考察をおこなう<br>* 主張を明らかにし、問いへの答えを出す<br>* ゼミの教員や他のゼミ生だけでなく、さまざまな教員や学生に研究の相談をおこなう<br>* 卒業論文を執筆し、ゼミ教員にその都度提出する<br>* 返却された論文への質問やコメントに回答し、論文を改稿する | 演習<br>質疑応答   | 各週のゼミでレジюмеを作成し報告する。課題としてその都度提示される内容をクリアする。 | (予習)<br>次のゼミで報告する内容についてのレジюмеを作成する。<br>(復習)<br>指示を受けた課題に取り組む。分析結果への考察を中心にこない、文章化を進める。 | 無制限   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

| 週 | 学修内容  | 授業の実施方法      | 到達レベル C(可)の基準                                 | 予習・復習  | 時間(分) | 能力名  |
|---|---|--------------|---|--|-------|--|
| ※ | 卒業論文<br>* 問い／結論／論証を明確にし、卒業論文を執筆する<br>* 参考文献を明示する<br>* ゼミ教員のチェックを受ける<br>* 〆切までに論文を提出する | 論文の執筆・提出     | 論文のテーマと問い／結論／論調がつながった論文となっている。<br>提出の〆切を厳守する。 | (予習)<br>卒業研究発表会の準備に取りかかる。<br><br>(復習)<br>ゼミでの学びをふまえて論文の執筆を進める。               | 無制限   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| ※ | 卒業研究発表会に向けたリハーサル<br>* 発表の構成を組み立てる<br>* 発表用資料を作成する<br>* 発表のリハーサルをおこなう                  | 演習<br>質疑応答   | 発表用資料を作成しリハーサルに参加する。                          | (予習)<br>リハーサルで出た問題をクリアできるよう、内容をブラッシュアップする。<br><br>(復習)<br>問題をクリアできるよう準備を進める。 | 無制限   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| ※ | 卒業研究発表会<br>* 1年間の成果として、研究内容について報告する<br>* 質疑応答にて的確に応答する                                | 成果発表<br>質疑応答 | 発表会にて、定められたルールを守りつつ研究発表をおこなう。                 | (予習)<br>予想されるコメントや質問を吟味し、適宜応えられるよう調査や考察を進める。<br><br>(復習)<br>発表会の成果を振り返る。     | 無制限   | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

2019 年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号  | 科目名                         | 担当者名   | 基礎・専門別  | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|-----------------------------|--|---|-----|--------|---------|
| 2203151   | 卒業研究<br>Graduation Research | 丹羽 誠次郎   | 専門  | 4   | 必修     | 4年 通年   |
| <b>科目の概要</b>  |                             |  |   |     |        |         |
| <p>本科目は家政学専攻での4年間の学修の集大成に当たる。これまでの学修により積み上げてきた知見をベースとして、自身が設定した研究対象、テーマについて科学的な方法により調査、分析を行い、新たな見解を示していく。この一連の手続きを経験することによって、論理的に物事を思考する態度を身につけるばかりでなく、「新しいライフスタイルを提案」するために必要な、自分自身の考え方、ものの見方の軸を作っていくことにもなるだろう。</p> |                             |  |   |     |        |         |
| <b>学修内容</b>   |                             |  | <b>到達目標</b>   |     |        |         |
| ① 家政学専攻での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出す。<br>② 自身の研究テーマと方法に従い、資料の収集、調査・分析を行う。<br>③ 自身の研究内容を論文にまとめる。<br>④ 自身の研究の概要を口頭で発表する。  |                             |  | ① 家政学専攻での学修をベースに生活に関係した研究テーマを設定することができる。<br>② 自身の研究テーマに対して、科学的な方法と客観的な態度をもって分析することができる。<br>③ 自身の研究内容を論理的に記述することができる。<br>④ 自身の研究の概要を口頭で発表することができる。 |     |        |         |
| <b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>  |                             | <b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>                                     |   |     |        |         |
| 前に踏み出す力   | 主体性                         | 自身の選んだテーマへの好奇心を常に持続しつつ、研究に取り組むことができる。                                |   |     |        |         |
|   | 働きかけ力                       |  |   |     |        |         |
|   | 実行力                         | 研究に関することは、たとえ時間や根気が必要とされることでも面倒と思わず、常に積極的な態度で臨むことができる。               |   |     |        |         |
| 考え抜く力   | 課題発見力                       | 日常の生活の場面から、魅力的な研究テーマを見つけ出すことができる。普段から、自身の研究テーマに対する情報やヒントを探す態度を持続できる。 |   |     |        |         |
|   | 計画力                         |  |   |     |        |         |
|   | 創造力                         | 自身の研究テーマに対して、科学的な方法と客観的な態度をもって新しい見解を示すことができる。                        |   |     |        |         |
| チームで働く力   | 発信力                         | 研究に関する自身の見解を論文、口頭発表、スライドにまとめることができる。ゼミの仲間の研究に対して疑問や意見を提出することができる。    |   |     |        |         |
|   | 傾聴力                         | 多くの先行研究にあたることことができる。教員やゼミの仲間からの意見を建設的に受け取ることができる。                    |   |     |        |         |
|   | 柔軟性                         |  |   |     |        |         |
|   | 状況把握力                       |  |   |     |        |         |
|   | 規律性                         | 必要な作業を行ってからその報告を携えて毎回のゼミに出席できる。発表要旨、論文などの提出期限を守ることができる。              |   |     |        |         |
|   | ストレスコントロール力                 |  |   |     |        |         |
| <b>テキスト及び参考文献</b>   |                             |  |   |     |        |         |
| テキスト：<br>参考文献：戸田山和久、『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』、NHK 出版、2012。<br>それぞれの研究資料については随時指示する。   |                             |  |   |     |        |         |
| <b>他科目との関連、資格との関連</b>   |                             |  |   |     |        |         |
| 家政学専攻で開講される全ての科目、特にキャリア形成Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ及び生活スタジオ入門、生活スタジオⅠ、Ⅱ。   |                             |  |   |     |        |         |
| <b>学修上の助言</b>   |                             |  | <b>受講生とのルール</b>   |     |        |         |
| 卒業研究に対して努力を惜しまないこと、研究対象への好奇心を持続させること。資料を精査し、自分の頭で精一杯考えることが全員に求められる。一生懸命取り組むことによって初めて「研究すること」の面白さも理解できる。中途半端な取り組みからは、何も得ることができないと心得て欲しい。   |                             |  | 4年次の1年間、少しずつで良いので自身の卒業研究に係る作業を毎日必ず継続してほしい。また、ゼミへの毎週の出席と進捗状況の報告も必須とする。また時間に限度は設けず、学修(研究)に臨んでほしい。   |     |        |         |

【評価方法】

| 評価方法             | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント |
|------------------|-------|------|---------------------------------|
| 筆記試験             |       | ①    |                                 |
|                  |       | ②    |                                 |
|                  |       | ③    |                                 |
|                  |       | ④    |                                 |
|                  |       | ⑤    |                                 |
| 小テスト             |       | ①    |                                 |
|                  |       | ②    |                                 |
|                  |       | ③    |                                 |
|                  |       | ④    |                                 |
|                  |       | ⑤    |                                 |
| レポート             | 70    | ①    | ✓                               |
|                  |       | ②    | ✓                               |
|                  |       | ③    | ✓                               |
|                  |       | ④    | ✓                               |
|                  |       | ⑤    |                                 |
| 成果発表<br>(口頭・実技)  | 20    | ①    | ✓                               |
|                  |       | ②    | ✓                               |
|                  |       | ③    | ✓                               |
|                  |       | ④    | ✓                               |
|                  |       | ⑤    |                                 |
| 作品               |       | ①    |                                 |
|                  |       | ②    |                                 |
|                  |       | ③    |                                 |
|                  |       | ④    |                                 |
|                  |       | ⑤    |                                 |
| 社会人基礎力<br>(学修態度) | 10    | ①    |                                 |
|                  |       | ②    |                                 |
|                  |       | ③    |                                 |
|                  |       | ④    |                                 |
|                  |       | ⑤    |                                 |
| 総合評価<br>割合       | 100   | ①    |                                 |
|                  |       | ②    |                                 |
|                  |       | ③    |                                 |
|                  |       | ④    |                                 |
|                  |       | ⑤    |                                 |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準   | 到達レベルB(良)の基準  |
|--|---|
| <p>① 質問や意見を積極的に述べることができる。</p> <p>② 先行研究を示しつつ、自身の研究テーマの独自性が説明できる。</p> <p>③ 研究の論旨が明快で結論にも明快な主張がある。</p> <p>※上記3項目の基準をに対して極めて高い評価が与えられると判断された場合、S(秀)評価をする。</p> | <p>① 毎週行われるゼミに参加し、自身の研究の進捗状況について報告ができる。</p> <p>② 発表会で研究内容がより分かりやすく理解してもらえるような工夫をしている。</p> <p>③ 先行研究を示しつつ、研究が進められている</p> <p>④ 客観的なデータに基づき、論が展開されている。</p> <p>⑤ 学術論文の形式に則った論文が作成されている。</p> |

| 週                        | 学修内容   | 授業の実施方法 | 到達レベル C(可)の基準                | 予習・復習   | 時間(分) | 能力名   |
|--------------------------|--|---------|------------------------------|---|-------|---|
| 1週<br>～<br>2週<br>/<br>/  | 毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらおう。<br><br>自身の興味の周辺にある先行研究や文献にあたり、研究テーマを設定する。  | 演習      | 毎週のゼミ参加している。研究テーマ案を提示できる。    | (予習)自身の興味の周辺にある先行研究や文献にあたる。毎週のゼミに参加するにあたって、1週間の作業の進捗状況をレジュメにまとめておく。<br><br>(復習)ゼミで指摘を受けた事項について再検討する。                                | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 3週<br>～<br>5週<br>/<br>/  | 毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらおう。<br><br>設定した研究テーマが卒業研究として成立するか判断するために、さらに先行研究にあたり、その妥当性を確認する。<br>同時に研究方法、研究計画についても妥当かつ可能であることを確認する。<br>※ 研究テーマの決定 | 演習      | 毎週のゼミ参加している。研究テーマの妥当性を提示できる。 | (予習)研究として成立するか判断するために、さらに先行研究にあたる。毎週のゼミに参加するにあたって、1週間の作業の進捗状況をレジュメにまとめておく。<br><br>(復習)ゼミで指摘を受けた事項について再検討する。                         | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 6週<br>～<br>14週<br>/<br>/ | 毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらおう。<br><br>各自の研究方法に従って調査(文献調査、フィールド・ワーク、インタビュー、アンケート調査等)を進める。  | 演習      | 毎週のゼミ参加している。調査の進捗状況を報告できる。   | (予習)各自の研究方法に従って調査(文献調査、フィールド・ワーク、インタビュー、アンケート調査等)を進める。毎週のゼミに参加するにあたって1週間の作業の進捗状況をレジュメにまとめておく。<br><br>(復習)ゼミで指摘を受けた事項について再検討、追加調査する。 | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 15週<br>/<br>/            | 卒業研究中間報告の準備<br>ここまで研究の進捗状況をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行い、教員のチェックを受ける。   | 演習      | 発表原稿とスライド、要旨が作成できる。          | (予習)ここまでの研究の進捗状況をまとめ、発表原稿とスライド、要旨の作成を行う。<br><br>(復習)教員から指摘を受けた事項について修正を行う。  | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

| 週                 | 学修内容  | 授業の実施方法 | 到達レベル C(可)の基準                            | 予習・復習  | 時間(分) | 能力名   |
|-------------------|---|---------|--|--|-------|---|
| 16週 /             | 卒業研究中間報告<br>ここまでの研究の進捗状況を発表する。  | 発表      | 卒業研究中間報告ができる。                            | (予習)発表のリハーサルを行う。<br>(復習)発表に対して出された質問や意見をまとめる。  | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 17週<br>～<br>20週 / | 毎週のゼミに参加して、自身の研究の進捗状況を報告し、教員やゼミの他学生から意見をもらう。<br>調査(文献調査、フィールドワーク、インタビュー、アンケート調査等)結果をまとめ、分析、考察をおこなう。 | 演習      | 毎週のゼミ参加している。分析の進捗状況を報告できる。               | (予習)各自の研究方法に従って調査結果の分析を進める。毎週のゼミに参加するにあたって1週間の作業の進捗状況をレジュメにまとめておく。<br>(復習)ゼミで指摘を受けた事項について再検討、追加調査する。 | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 21週<br>～<br>28週 / | 卒業論文の執筆<br>論文の構成を考え、目次を作る。<br>毎週のゼミに参加して、論文の完成した部分から教員のチェックを受ける。                                    | 演習      | 毎週のゼミ参加している。期日までに論文を作成し、教員の確認を経た上で提出できる。 | (予習)各自の組み立てた構成に従って論文の執筆を進める。<br>(復習)教員から指摘を受けた部分を修正する。   | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 29週<br>～<br>30週 / | 卒業研究発表の準備<br>研究の内容を発表原稿とスライド、要旨の作成を行い、教員のチェックを受ける。  | 演習      | 発表原稿とスライド、要旨が作成できる。                      | (予習)発表用の、原稿とスライド、要旨の作成を行う。<br>(復習)発表会で指摘を受けた点について必要に応じて修正を行う。  | ●     | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

## 2019年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号  | 科目名                         | 担当者名  | 基礎・専門別   | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|-----------------------------|---|--|-----|--------|---------|
| 2203151   | 卒業研究<br>Graduation Research | 平岩 暁子                                       | 専門   | 4   | 必修     | 4年 通年   |
| <b>科目の概要</b>  |                             |   |  |     |        |         |
| 家政学専攻で学んだ知識を最大限に生かし、4年間の学修の集大成として研究を行う。衣生活やファッションの視点から生活の中での課題や問題点を見つけ、調査・分析、制作などの手法をとりながら新たな見解を示していく。論理的な文章で研究論文をまとめ、得られた事実を分かりやすく伝えられるように発表を行い、質疑やコメントに対して的確に対応する力を身につけていく。 |                             |   |  |     |        |         |
| <b>学修内容</b>   |                             |   | <b>到達目標</b>  |     |        |         |
| ①家政学専攻での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出す。<br>②自身の研究テーマと方法に従い、資料の収集、調査、分析を行う。<br>③自身の研究内容を論文にまとめる。<br>④自身の研究を口頭で発表し質疑に応答する。   |                             |   | ①家政学専攻での学修をベースに生活に関係した研究テーマを見つけ出すことができる。<br>②自身の研究テーマと方法に従い、資料の収集、調査、分析を行うことができる。<br>③自身の研究内容を論理的にまとめることができる。<br>④自身の研究を口頭で発表し質疑に適切に対応できる。 |     |        |         |
| <b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>  |                             | <b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>            |  |     |        |         |
| 前に踏み出す力   | 主体性                         | 設定したテーマについて常に好奇心と探求心を持って取り組む。               |  |     |        |         |
|   | 働きかけ力                       |   |  |     |        |         |
|   | 実行力                         | 研究の進捗を確認しながら、常に積極的に行動する。                    |  |     |        |         |
| 考え抜く力   | 課題発見力                       | 日常生活の中からさまざまな視点で関心や疑問を持ち、研究テーマを見つけ出すことができる。 |  |     |        |         |
|   | 計画力                         |   |  |     |        |         |
|   | 創造力                         | 設定した研究テーマに対して、新しい見解を示すことができる。               |  |     |        |         |
| チームで働く力   | 発信力                         | 研究に関する自身の見解を論文、口頭発表、パワーポイントにまとめることができる。     |  |     |        |         |
|   | 傾聴力                         | 教員や他者からの意見を正確に理解し、自分の考えもまとめることができる。         |  |     |        |         |
|   | 柔軟性                         |   |  |     |        |         |
|   | 状況把握力                       |   |  |     |        |         |
|   | 規律性                         | 無断欠席、遅刻をしない。ルールを守った行動ができる。                  |  |     |        |         |
|   | ストレスコントロール力                 |   |  |     |        |         |
| <b>テキスト及び参考文献</b>   |                             |   |  |     |        |         |
| テキスト:使用しない<br>参考文献:各自の研究内容に応じて参考・引用文献を紹介する  |                             |   |  |     |        |         |
| <b>他科目との関連、資格との関連</b>   |                             |   |  |     |        |         |
| 全ての履修科目と関連させる   |                             |   |  |     |        |         |
| <b>学修上の助言</b>   |                             |   | <b>受講生とのルール</b>  |     |        |         |
| 研究に対し謙虚に向き合う姿勢を持つこと。好奇心と探求心を持続させ努力を惜しまないこと。   |                             |   | ゼミへの毎週の出席と進捗状況の報告を必須とする。期日があるものは計画立て確実に実行すること。   |     |        |         |



【評価方法】

| 評価方法             | 評価の割合 | 到達目標 |   | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント  |
|------------------|-------|------|---|--|
| 筆記試験             |       |      |   |  |
| 小テスト             |       |      |   |  |
| レポート             |       |      |   |  |
| 成果発表<br>(口頭・実技)  | 30    | ①    | ✓ | 卒業研究中間発表会と卒業研究発表会でのプレゼンテーションと質疑やコメントに対する応答を評価する。   |
|                  |       | ②    | ✓ |  |
|                  |       | ③    | ✓ |  |
|                  |       | ④    | ✓ |  |
|                  |       | ⑤    |   |  |
| 作品               |       |      |   |  |
| 社会人基礎力<br>(学修態度) | 10    | ①    | ✓ | <b>【主体性】</b> 自身が設定したテーマに常に好奇心と探求心を持って取り組むことができる。<br><b>【実行力】</b> 目標のレベルまで到達しようと自ら研究を進める。<br><b>【課題発見力】</b> 生活の中で興味や疑問を持ち、テーマを見つけ出すことができる。<br><b>【創造力】</b> 自身が設定した研究テーマに対して、新しい見解を示すことができる。<br><b>【発信力】</b> ゼミでの報告、発表会で自らの考えを的確に表現し、伝えることができる。他者の研究にも興味を持ち意見や疑問を発信できる。<br><b>【傾聴力】</b> 教員の意見や、ゼミの仲間からの意見を建設的に受け取ることができる。<br><b>【規律性】</b> ゼミを欠席しない。社会のルールと約束を守ることができる。 |
|                  |       | ②    | ✓ |  |
|                  |       | ③    | ✓ |  |
|                  |       | ④    | ✓ |  |
|                  |       | ⑤    |   |  |
| 総合評価<br>割合       | 100   |      |   |  |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準   | 到達レベルB(良)の基準   |
|--|--|
| <p>研究を自ら積極的に行えていることに加え、問題が生じた場合でも的確に判断し対応できること。しっかりと調査分析が行え、自らの問いに対する結果が導き出せている。論理的な主張がされ研究論文がまとめられている。論文発表会では分かりやすくまとめ報告ができる。質疑やコメントに対しても的確に対応できている。</p> <p>上記に対し特に高い評価を与えられると判断される場合、秀とする。</p> | <p>毎週のゼミに必ず出席し、研究結果をまとめた報告書、要旨、論文を決められた期日までに提出できる。</p> |

| 週      | 学修内容                              | 授業の実施方法 | 到達レベル C(可)の基準                        | 予習・復習  | 時間(分) | 能力名   |
|--------|-----------------------------------|---------|--------------------------------------|--|-------|---|
| 1～5週   | 研究テーマを確立するための先行研究の調査              | 演習      | 毎週のゼミに参加している研究テーマに関する資料を収集することができる   | 図書館やインターネットによる論文検索                           |       | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 6～10週  | 先行研究から得られた知識をもとに自分の研究方法を見出す       | 演習      | 先行研究から自分の研究の手法を見出し、予備調査ができる。         | 目的に応じて調査を行う。                                 |       | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 11～13週 | 先行研究の方法に応じた予備調査から今後の方向性を計画する。     | 演習      | 先行研究の手法に応じた予備調査から自身の研究方法を決定することができる。 | 予備調査を行いその結果から自身の研究方法を見出す                     |       | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 14～15週 | 研究を進めると同時に中間発表の準備を行う。             | 演習      | 研究の結果をまとめて中間発表の準備をすることができる           | 調査をもとに中間発表の要旨およびパワーポイントの作成を行う。               |       | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 16～25週 | 各自の研究を進め、得られた結果から考察を行う            | 演習      | 研究結果を分析し得られた結果をまとめて考察を行う。            | 結果のまとめと考察を行う。                                |       | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |
| 26～30週 | 卒業論文の執筆<br>卒業研究発表の準備。要旨とパワーポイント作成 | 演習      | 各自の組み立てた構成に従って論文執筆できる。<br>卒業研究発表ができる | 各自の組み立てた構成に従って論文執筆する。発表用の要旨およびパワーポイントの作成を行う。 |       | 主体性<br>実行力<br>課題発見力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>規律性 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

2019 年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号  | 科目名                         | 担当者名                               | 基礎・専門別   | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---|-----------------------------|------------------------------------|--|-----|--------|---------|
| 2203151   | 卒業研究<br>Graduation Research | 森山三千江                              | 専門   | 4   | 必須     | 4年 通年   |
| <b>科目の概要</b>  |                             |                                    |  |     |        |         |
| <p>家政学専攻で4年間学んだ知識を最大限に生かし、社会へ出る前の集大成としての研究をおこなう。家政学の立場から衣・食・住といった生活全般に関わる知識を基盤として、一般社会において人々へ啓発活動ができる人材となることを目的とする。そのため、研究方法としてはより深く真実を追求し、既成概念を打ち破り、新たな領域における知識を得るべく研究を行う。また、自分の研究結果から得られた新事実を分かりやすく伝えられるように発表をおこない、論理的な文章として卒業論文にまとめる力を身につける。更に、研究から得られた知識を社会に発信し、より豊かな生活を送る事が出来るように役立てる。</p> |                             |                                    |  |     |        |         |
| <b>学修内容</b>   |                             |                                    | <b>到達目標</b>  |     |        |         |
| ① 生活の中から現状の問題点に気づく。<br>② 先行研究について調査する。<br>③ 研究目的を設定する。<br>④ 研究方法や計画を構築する。<br>⑤ 結果及び考察を発表する。   |                             |                                    | ① 生活の中から現状の問題点に気づく事が出来る。<br>② 先行研究を比較するなどの調査が出来る。<br>③ 自分の研究目的を設定する事が出来る。<br>④ 年間の研究方法・計画を構築することが出来る。<br>⑤ 結果及び考察を他の人に発信し、実生活の中で活用する事が出来る。 |     |        |         |
| <b>学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素</b>  |                             | <b>学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例</b>   |  |     |        |         |
| 前に踏み出す力   | 主体性                         | 指示されずに自ら進んで研究に取り組むことが出来る。          |  |     |        |         |
|   | 働きかけ力                       | 学内のみでなく、学外にも進んで調査に出かけることが出来る。      |  |     |        |         |
|   | 実行力                         | 研究の進み具合を確認しながら、実験／調査を進めることが出来る。    |  |     |        |         |
| 考え抜く力   | 課題発見力                       | 研究を行う中で新規課題を見つけたら、さらに追求する事が出来る。    |  |     |        |         |
|   | 計画力                         | 必要な調査／研究方法を前もって調べてから研究を遂行することが出来る。 |  |     |        |         |
|   | 創造力                         | 研究の途中でも新たな研究方法や質問紙を製作することが出来る。     |  |     |        |         |
| チームで働く力   | 発信力                         | 研究で協力者が必要な際は協力者を呼びかけることが出来る。       |  |     |        |         |
|   | 傾聴力                         | 先行研究者や協力者の意見を聞く事が出来る。              |  |     |        |         |
|   | 柔軟性                         | 固定観念に捕われず、多角的・多方面から考える事が出来る。       |  |     |        |         |
|   | 状況把握力                       | 研究の進行具合から内容を深くあるいは短縮することが出来る。      |  |     |        |         |
|   | 規律性                         | 約束の時間を厳守し、限られた時間で研究がきちんと出来る。       |  |     |        |         |
|   | ストレスコントロール力                 | 研究が思うように進行しなくてもきちんと進めることが出来る。      |  |     |        |         |
| <b>テキスト及び参考文献</b>   |                             |                                    |  |     |        |         |
| テキスト:使用しない。<br>参考文献:各自の研究内容に応じて参考・引用文献を紹介する。  |                             |                                    |  |     |        |         |
| <b>他科目との関連、資格との関連</b>   |                             |                                    |  |     |        |         |
| 他科目：栄養学、食品学、調理学   |                             |                                    |  |     |        |         |
| <b>学修上の助言</b>   |                             |                                    | <b>受講生とのルール</b>  |     |        |         |
| 前期は予備調査／実験を行う準備期間とし、夏休みから本格的な研究になります。しっかりと先行研究を調べて新たな発見となる研究を行って行きます。   |                             |                                    | 教員との約束の時間に遅れないこと。また、研究の内容は常に記録して、発表会・論文に備える事。要旨など期日が有るものは計画立てで作成し、早めに提出し、何度もチェックを受けて完成する事。   |     |        |         |

【評価方法】

| 評価方法             | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント |   |
|------------------|-------|------|---------------------------------|---|
| 筆記試験             |       | ①    |                                 |   |
|                  |       | ②    |                                 |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    |                                 |   |
|                  |       | ⑤    |                                 |   |
| 小テスト             |       | ①    |                                 |   |
|                  |       | ②    |                                 |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    |                                 |   |
|                  |       | ⑤    |                                 |   |
| レポート             |       | ①    |                                 |   |
|                  |       | ②    |                                 |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    |                                 |   |
|                  |       | ⑤    |                                 |   |
| 成果発表<br>(口頭・実技)  | 90    | ①    | レ                               | ① 中間発表の要旨では研究の背景や方法がしっかり書けているか。<br>② 中間発表会で研究の目的や方法を的確に発表し、質疑に答えられるか。<br>③ 卒研発表要旨には結果や考察がきちんと書けているか。<br>④ 卒研発表会で結果と考察を論理的に発表でき、質疑にも的確に答えられるか。<br>⑤ 論文は緒言から考察まで論文としての文章でまとめて書けているか。  |
|                  |       | ②    | レ                               |   |
|                  |       | ③    | レ                               |   |
|                  |       | ④    | レ                               |   |
|                  |       | ⑤    | レ                               |   |
| 作品               |       | ①    |                                 |   |
|                  |       | ②    |                                 |   |
|                  |       | ③    |                                 |   |
|                  |       | ④    |                                 |   |
|                  |       | ⑤    |                                 |   |
| 社会人基礎力<br>(学修態度) | 10    | ①    | レ                               | (主体性)自ら進んで研究を進めていくことができる。<br>(実行力)研究の進行に応じて、実験／調査を進めることができる。<br>(状況把握力)研究の進行状況に応じて、改善案を考えられる。<br>(創造力)研究の中で自ら質問紙を作成する、文章を書く事が出来る。<br>(発信力)協力者や調査対象者に正しく内容を伝えることができる。<br>(傾聴力)教員の指示に対してきちんと従う事が出来る。<br>(規律性)遅刻・欠席をせず、報告、要旨や論文を期日までに、記入もれがなく提出することができる。 |
|                  |       | ②    | レ                               |   |
|                  |       | ③    | レ                               |   |
|                  |       | ④    | レ                               |   |
|                  |       | ⑤    | レ                               |   |
| 総合評価<br>割合       | 100   |      |                                 |   |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準   | 到達レベルB(良)の基準   |
|--|--|
| <p>研究を率先して行う事に加えて、研究を進めて行く上で不具合が生じた際には的確に対応できる事。論文をこれまでの結果を踏まえて考察がしっかり書けており、発表も研究内容がきちんと把握されており、まとめていけば A、さらにその内容が参考文献や引用文献が元になっていて適切な内容であり、さらに発表の際にも参考文献を用いた内容である場合は S とする。</p> | <p>一応の研究成果をまとめた論文を決められた期限までに提出する事が出来、発表も適切にできていけば B とする。</p> |

| 週      | 学修内容                            | 授業の実施方法  | 到達レベルC(可)の基準                                   | 予習・復習   | 時間(分) | 能力名                               |
|--------|---------------------------------|----------|--|---|-------|-----------------------------------|
| 1～5週   | 研究テーマを確立するための先行研究の調査            | 演習       | 研究テーマに関する資料を収集することが出来る。                        | (予習)<br>図書館あるいはインターネットによる論文検索<br>(復習)<br>ノートに調べて事をまとめる                                | 120   | 主体性<br>実行力<br>発進力<br>計画力<br>規律性   |
| 6～10週  | 先行研究から得られた知識を元に自分の研究方法を見いだす     | 演習／実験・実習 | 先行研究から自分の研究を行う手法を見だし予備実験／調査を行う。                | (予習)<br>目的に応じて調査あるいは<br>(復習)<br>実験実習を行い、その結果を見やすくまとめる                                 | 180   | 主体性<br>実行力<br>計画性<br>状況把握力<br>規律性 |
| 10～13週 | 先行研究の方法に応じた予備調査／実験から今後の方向性を計画する | 演習／実験・実習 | 先行研究の手法に応じた予備調査／実験・実習の結果から自らの方法を決定することが出来る。    | (予習)<br>調査した内容を自分の言葉にして必要な箇所をチャックする<br>(復習)<br>調査内容と自分の研究内容で異なる点や参考になる箇所、新たな視点を見直しておく | 180   | 主体性<br>実行力<br>計画力<br>状況把握力<br>傾聴力 |
| 14～15週 | 研究を行うと同時に中間発表の準備を進める            | 演習／実験・実習 | 研究の結果をまとめて中間発表の準備をすることが出来る。                    | (予習)<br>調査、実験方法の見直し<br>(復習)<br>調査結果あるいは実験結果を見やすく整理しておく                                | 180   | 主体性<br>実行力<br>状況把握力<br>規律性        |
| 15～25週 | 各自の研究を進め、得られた結果から考察を行う          | 演習／実験／実習 | 研究の内容を良く理解した上で結果をまとめて考察を行って行き不足分を更に追跡することが出来る。 | (予習)<br>調査、実験方法の見直しを行う<br>(復習)<br>調査結果あるいは実験結果を見やすく整理しておく                             | 270   | 主体性<br>実行力<br>計画力<br>状況把握力<br>発信力 |
| 25～30週 | 卒業研究発表の要旨とパワーポイント作成および論文執筆      | 個人指導     | 研究から得られた結果から発表用の要旨とパワーポイントを作成し、論文をまとめる事が出来る。   | (予習)<br>結果のまとめと整理する<br>(復習)<br>得られて結果から何が言えるのか文献も使用し考察する                              | 180   | 主体性<br>実行力<br>発信力<br>創造力<br>規律性   |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力

平成31年度 愛知学泉大学シラバス

| 科目番号    | 科目名                         | 担当者名 | 基礎・専門別 | 単位数 | 選択・必修別 | 開講年次・時期 |
|---------|-----------------------------|------|--------|-----|--------|---------|
| 2203151 | 卒業研究<br>Graduation Research | 山田陽平 | 専門     | 4   | 必修     | 4年通年    |

**科目の概要**

「認知」とは思考や推論、記憶などの知的活動の総称であり、一般的には頭の中（脳）の働きによるものと考えられている（ただの認知論）。状況的認知論とは、人の知的さは頭の中だけで成立するものではなく、頭の外にある身体や物理的な環境、その場の状況が複雑に相互作用したものとする立場である。本研究室では、この状況的認知論の立場に基づき、人の知性がいかに発達するのかを明らかにしていくことが大きな目的である。具体的に挙げると、「できない」から「できる」ようになっていく学習過程を明らかにすることに関心がある。このときの学習は、お勉強的な学習でもよいし、運動技能の学習、賢く買い物ができるようになるといった日常生活で賢く生きていくような学習でも何でもよく、人間の知性に関することであれば全て研究のターゲットである。

研究の方法は一人称研究を軸としており、研究者自身が被験者となり、長期間にわたって自分自身の変化を記録・分析する。そのためにデータの収集を多面的に行う。認知のような内部で行われている目に見えない現象を言語化することで外化する。そのために、今の思考を発話して収集・分析するプロトコル分析などを使う。加えて、身体動作の映像記録、視線計測装置を活用し、客観的なパフォーマンスの測定も行う。

| 学修内容  | 到達目標  |
|---|---|
| 人の生活にかかわるモノゴトを自分ごととして考え、問うことと解を作り出すことをループさせ、理解を深めていく。学術文献を読みあさり、自分の研究の位置付けおよび意義を見つける。これらの研究活動を通して、モノゴトを探究する方法を学ぶ。 | 学修内容にある研究活動を行った上で、論文を書き上げることができる。序論では先行研究を正しく引用し、目的に意義を持たせることができる。方法は再現できるように正確かつ丁寧に書くことができる。データは事前に計画した通りに分析することに加えて、多面的に見ようとし続けることができる。データおよび理論を総合して、論理性をもった自分なりの考察をすることができる。 |

**学生に発揮させる社会人基礎力の能力要素**

**学生に求める社会人基礎力の能力要素の具体的行動事例**

|         |             |                             |
|---------|-------------|-----------------------------|
| 前に踏み出す力 | 主体性         | 物事に進んで取り組んでいる。              |
|         | 働きかけ力       | 他人に働きかけ、巻き込んでいる。            |
|         | 実行力         | 目的を設定し、確実に行動している。           |
| 考え抜く力   | 課題発見力       | 現状を分析し、目的や課題を明らかにしている。      |
|         | 計画力         | 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備している。 |
|         | 創造力         | 新しい価値を生み出している。              |
| チームで働く力 | 発信力         | 自分の意見をわかりやすく伝えている。          |
|         | 傾聴力         | 相手の意見を丁寧に聴いている。             |
|         | 柔軟性         | 意見の違いや立場の違いを理解している。         |
|         | 状況把握力       | 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解している。    |
|         | 規律性         | 社会のルールや人との約束を守っている。         |
|         | ストレスコントロール力 | ストレスの発生源に対応している。            |

**テキスト及び参考文献**

研究をはじめるとに当たって参照する学術論文: 認知科学, 質的心理学研究, 心理学研究, 人工知能学会誌, 家政学会誌

**他科目との関連、資格との関連**

全ての履修科目と関連させる。

| 学修上の助言                                | 受講生とのルール               |
|---------------------------------------|------------------------|
| 最後まであきらめずに努力し続け、自分の限界を超えて論文を完成させてほしい。 | 目標を定めて必ず実行する。礼節をわきまえる。 |

【評価方法】

| 評価方法             | 評価の割合 | 到達目標 | 各評価方法、評価にあたって重視する観点、評価についてのコメント   |
|------------------|-------|------|---|
| 筆記試験             |       | ①    |   |
|                  |       | ②    |   |
|                  |       | ③    |   |
|                  |       | ④    |   |
|                  |       | ⑤    |   |
| 小テスト             |       | ①    |   |
|                  |       | ②    |   |
|                  |       | ③    |   |
|                  |       | ④    |   |
|                  |       | ⑤    |   |
| レポート             |       | ①    |   |
|                  |       | ②    |   |
|                  |       | ③    |   |
|                  |       | ④    |   |
|                  |       | ⑤    |   |
| 成果発表<br>(口頭・実技)  | 10    | ①    | 最終発表会で研究内容を省略することなく、かつ下級生にもわかるように表現しようとしているかを評価する。  |
|                  |       | ②    |   |
|                  |       | ③    |   |
|                  |       | ④    |   |
|                  |       | ⑤    |   |
| 作品               | 80    | ①    | 卒業論文の内容を評価する。評価の観点は、到達目標に挙げたとおりで、序論、方法、結果、考察について学術論文を基準に評価する。加えて、引用文献が正しく書けているかを評価する。   |
|                  |       | ②    |   |
|                  |       | ③    |   |
|                  |       | ④    |   |
|                  |       | ⑤    |   |
| 社会人基礎力<br>(学修態度) | 10    | ①    | 以下の観点それぞれに対して、15週を通して観察し、評価する。<br>主体性 物事に進んで取り組んでいる。<br>働きかけ力 他人に働きかけ、巻き込んでいる。<br>実行力 目的を設定し、確実に行動している。<br>課題発見力 現状を分析し、目的や課題を明らかにしている。<br>計画力 課題の解決に向けたプロセスを明らかにし、準備している。<br>創造力 新しい価値を生み出している。<br>発信力 自分の意見をわかりやすく伝えている。<br>傾聴力 相手の意見を丁寧に聴いている。<br>柔軟性 意見の違いや立場の違いを理解している。<br>状況把握力 自分と周囲の人々や物事との関係性を理解している。<br>規律性 社会のルールや人との約束を守っている。<br>ストレスコントロール力 ストレスの発生源に対応している。 |
|                  |       | ②    |   |
|                  |       | ③    |   |
|                  |       | ④    |   |
|                  |       | ⑤    |   |
| 総合評価<br>割合       | 100   |      |   |

【到達目標の基準】

| 到達レベルS(秀)及びA(優)の基準  | 到達レベルB(良)の基準   |
|---|--|
| Aに加えて、独自の視点による考察がされていればSとする。<br>誤字脱字がなく、心理学研究の手引きおよびAPAマニュアルに従って図表や統計量、引用文献が記載されていればAとする。 | 論文を提出しただけであればCとする。<br>学会発表のレベルの内容であればBとする。<br>すなわち、序論、方法、結果、考察、引用文献を正しく書いていればB以上となる。 |

| 週                         | 学修内容  | 授業の実施方法 | 到達レベル C(可)の基準                                       | 予習・復習                             | 時間(分) | 能力名  |
|---------------------------|---|---------|---|-----------------------------------|-------|--|
| 1週<br>～<br>15週<br>/<br>/  | 問題を発見するために、学术论文を読みあさる。<br>問題を解決するための方法および分析方法を計画する。 | 演習      | 前期のうちに、最低 3 本以上の学术论文を読み、発表をとおして理解していることがわかる。        | 参考文献に挙げた学术论文から興味のある論文をピックアップして読む。 |       | 主体性<br>働きかけ力<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>柔軟性<br>状況把握力<br>規律性<br>ストレスコントロール力 |
| 16週<br>～<br>30週<br>/<br>/ | データの収集および解析を行う。<br>論文を執筆する。                         | 演習      | できる限り多くデータを収集し、適切に解析することができる。<br>論文を執筆し、提出することができる。 | データを収集する。<br>論文を執筆する。             |       | 主体性<br>働きかけ力<br>実行力<br>課題発見力<br>計画力<br>創造力<br>発信力<br>傾聴力<br>柔軟性<br>状況把握力<br>規律性<br>ストレスコントロール力 |

能力名: 主体性 働きかけ力 実行力 課題発見力 計画力 創造力 発信力 傾聴力 柔軟性 状況把握力 規律性  
ストレスコントロール力